



題字 井口 文章  
再刊 第447号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2024

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：62回生の皆さん、  
入学おめでとうございます！  
二面：新聞の作り方を紹介！  
興味がある人は新校舎7階生徒会室まで

# 錦城生としてのはじめの一步

## 62回生入学式挙行

4月8日(月)、第一体育館にて62回生の入学式が行われた。新入生509名が新しい制服に身を包み、期待にあふれた面持ちで、3年間の錦城での生活のスタートを切った。

未来への希望をもって  
桜がきれいに咲き誇っているなか、錦城高校62回生の入学式が行われた。校門から下駄箱にかけて真新しい制服を身に着けた新入生が中庭に設置された「入学式」の看板に例年通り長蛇の列をなす。名簿が自分の名前が見つかる



式前に看板の横で写真を撮る新入生たち



「一歩一歩着実に」

### 期待を胸に錦城へ

「錦城に来て嬉しいです」  
宿泊研修が一番楽しみだと言っている一宮美空さん(1E)。錦城が第一志望だったというので、「以前から錦城についてよく調べてはいたのですが、今日、実際に来ることができて良かったです」と喜びを語った。どの部活に入りたいかについて聞くと、「音楽系の部活かバレー部あたりで考えています」と話した。一宮さんは「将来のことはあまり決まっていなくてもいいですが、錦城は進路指導が充実していると聞いています」と話した。

また、繁田さんは錦城で頑張りたいことについて中学とは違った難しさのある数学に力を入れたい、と話していた。「勉強と部活の両立をできるようにしたい」などの意見も聞かれ、みんなのこれからの学校生活が期待で満ちていることを感じられた。



「自分の進路に向けて本気で頑張りたいです」

### ゆくり成長してください

阿部一朗校長先生の挨拶は、校庭に咲き満開の桜に合わせた季節の挨拶から始まった。校長先生は、まず始めに新入生509人の錦城高校入学を喜び、「まずは家族などの周囲の人に支えられて今まで育ったことに感謝しながら、高校生活を始めましょう」と語り、

成長してください」とメッセージを送って挨拶を締めくくった。



「出会いを大切にする」

あとの時間遅ければ、教員にはなっていない。新入生の皆さんも錦城に来て良かったと思えるように新しいスタートを切ってほしい、と言葉を送った。

## 先輩に教わる入試の心構え 進学懇談会実施

錦城を卒業したばかりの3年生による進学懇談会が3月19日(火)に行われた。3年次のコース、社会・理科の選択科目に応じてクラスが振り分けられ、1クラスにつき3人の先輩から勉強方法や入試への心構えについてお話を聞くことができた。入試を経験したばかりの先輩方から貴重なお話を聞くことができ、充実した時間となった。



熱く話してくれた3人

〈文系〉2D会場では主に教育学部合格した先輩方からお話を聞くことができた。杉山徹太さんは1日1日を大切にすることの重要性について語り、勉強法について「部活や委員会などの忙しさは変わらないものだ」と割り切って日々の復習を頑張っていました。中島綾香さんは予習を大切にしていたことを1・2年生に向けて語り、「やりたいと思ったことをやりつつ、部活と勉強ともに充実した錦城生活を送ってほしい」とメッセージを送った。大浦優太さんはこの日のために準備してきたという授業プリントとスライドを用いてお話をしてくれた。主に、勉強法を確立することの重要性について話し、「反省はあっても、後悔はないと言えるようにやり切ってください！」とエールを送った。

〈理系〉2Jの教室では薬学部や看護学部へ進学した先輩方からお話を聞くことができた。榎戸彩心さんは「ずっと同じ教科をし続けるのは飽きてしまうので、短いスパンでいくつかの教科を進めることが大切です」と語っていた。河村結愛さんはダンス部所属で高校1、2年生の時には毎日英文を全訳すること、高校3年生の時には1日10時間勉強することなど時期によってやることを決め、メリハリをつけて勉強したそう。古賀柚香さんからは「復習をしっかりやること」「ポジティブに勉強に取り組むこと」など受験に対するマインドを教えてもらった。(蘭・仏)

## 数オリ入賞者に聞く数学勉強法



「さらに上位を目指します」

本選が2月11日(日)に行われた第34回日本数学オリンピックにおいて、上位1割程度が受賞できる地区表彰という賞に選ばれた小村昌史さん(旧1B)。この試験は数学の整数、幾何、確率問題で構成されたもので、範囲的には高校2年生以降で解けるような難易度だそう。小村さんは、出題される問題に面白さを感じたことがきっかけで今回の数オリに参加した。

まず、数学が苦手な人は①計算ミスが多い、②問題の読み方がわからない、③2パターンに分けられない、④この①で①では単純に問題をたくさん練習することで向上が見込める。また、タイムアタック方式にする共通テストの対策にもなるという。

### 新しいスタートを切って

「皆さんは今、どんな気持ちでいるでしょうか？」そんな問いかけを新入生にしたのは、学年主任の國分はる美先生。「様々な気持ちがあると思いますが、私が一番緊張しています」という言葉で体育館を沸かせた。國分先生は、自身が続けてきたバレーボールにまつわる経験をふまえて、一回生にメッセージを送る。一つ目は「出会いを大切にするこ

### 自分の行動に責任を

新入生代表で誓いの言葉を述べたのは関本純大さん(1C)。「暖かな春の訪れとともに錦城高校に入学します」という言葉から始まり、明日から始まる高校生活への期待と喜びについて語った。

### むらさき草

実感というのは、変なタイミングでやってくる場合が多い。人によっていろいろだろうけれども、たとえば私が2年生への進級を「実感」したのは「先日、学校にある2階の駐輪場から自転車をおろしているときのことだ。修了式や卒業式とかではなく、その後のふとした瞬間に新生活の始まりを感じる人は多いのではなからうか。そういうえば、入学したの頃に「中学とは校舎の匂いが全然違う」と友人が話していたことがあった。人間の嗅覚と記憶は密接に関わっている。五感の中でも特に嗅覚だけが、記憶を司る海馬という部位にほぼ直接的に信号を送る仕組みになっている。特定の匂いが、それに結びつく記憶や感情を呼び起こす現象を「プルースト効果」と呼ぶ。フランスの作家マルセル・プルーストの長編小説『失われた時を求めて』(A la recherche du temps perdu)の中で、マドレーヌを口にした瞬間、その香りに刺激されて幼少期の風景が鮮やかによみがえるシーンが由来らしい。最近の歌詞なら、瑛人の「香水」か。「君のドルチェ&ガッパのその香水のせい」とある記憶を思い出し、という現象はまさしく「プルースト効果」だ。私たちがはるる、昨日入学したばかりの新入生も、いつか錦城の匂いを懐かしそうに思っているのだろうか。別にそれは校舎の匂いでなくとも、シス単を開いたときの匂いかもしれないし、小テストが印刷された半紙の匂いかもしれない。何でもない日常は小さな幸せで溢れているが、それらは忘れてしまうことが多い。だからこそ、ふと忘れていた記憶が蘇ってきた際は、その思い出を特別大切にしたい。(普)

# 錦城新聞づくりの4STEPを紹介!!

新校舎7階で待っています!

錦城高校新聞を紹介

錦城高校新聞とは新聞委員会編集室が年間約30号発行している学校新聞です。

新聞委員会は各クラスから1人選出され、新聞の配布やアンケートを行う「一般委員」、実際に取材や編集を行う有志「編集委員」で構成されています。現在、編集委員は3年生4人、2年生7人の計11人で活動しています。

紙面の内容は入学式や球技大会、錦城祭、校外学習などの行事、部活動、生徒会の活動やそれに対する生徒の声を中心とします。この他にも小平市の公共施設やお店取材をさせていたく外部取材や様々な連載企画を掲載しています。

新聞委員会は好成績を収めていて「文化部のインターハイ」と呼ばれる全国高等学校総合文化祭新聞部門には16年連続で出場しています。昨年度は東京都高等学校新聞コンクールにおいて最優秀賞を、2023かこしま総文において年間紙面審査賞を受賞したことで、今年の夏に開催される2024かこしま総文への参加が決定しています。

錦城高校新聞は「みんなで作る錦城高校新聞」というモットーのもと、錦城生や先生方、地域の方々の協力を得ながら長年にわたり発行され続けてきた歴史のある学校新聞です。

今号では新聞作りの過程を4STEPで紹介します。(白・紫)

## 今年度の全国大会出場決定!

錦城高校新聞委員会は錦城生をはじめとした多くの方々に支えられて、これまで多くの実績を挙げてきました。

特筆すべきは、全国高等学校総合文化祭(以下総文祭)への出場です。全国高等学校総合文化祭は、昭和52年から各都道府県が持ち回りで開催する高校生による芸術文化活動の祭典です。この大会は、新聞部門だけでなく、将棋や茶道、

錦城高校新聞委員会は今年度の夏に岐阜県で行われる総文祭への出場が決定しており、今年度で17年連続の出場が決まっています。

2003	東京都新聞コンクール初出場
2008	東京都新聞コンクール東京新聞賞受賞
2009	全国大会初出場
2016	全国大会優秀賞初受賞
2023	第47回全国大会出場(16年連続)
2024	第48回全国大会出場予定(17年連続)

新聞委員会編集委員は、取材を通して多くの生徒や先生方と交流できるだけでなく、地域の人や講師の方々など様々な方に関わり、普通の高校生活では体験することができない貴重な経験をする事ができます。

この紙面を通して、少しでも錦城高校新聞に興味を持って、一緒に新聞を作りたいと思ってください。ぜひ新校舎7階の生徒会室に来てみてください。愉快的先輩があなたのことを待っています!(紫)



印刷は新校舎7階にある生徒会印刷室のプリンターにて編集委員が自ら行って、発行のたびに生徒、教職員、学校関係者などに向けて約1600部以上印刷しています。近年では発行された紙面を錦城HPにアップロードしており、完成した紙面は各クラスの数分ごとに配布しています。これらのことを外部の業者に委託するのではなく、生徒自身の手で行っているのがほかの学校新聞とは異なる錦城高校新聞の特徴であり魅力です。

### 4 印刷・配布

印刷ミスがないように気を付けながら刷っていきます。協力しながらスムーズに作業していきます。

錦城高校新聞は記事の内容などをすべてを生徒が決めていることが特徴です。編集者を表裏で一人ずつ決め、その2人を中心に新たな号を作ります。初めに編集会議を行い、編集者を中心に編集委員全員で企画を決めます。具体的には紙面のレイアウト・記事の内容・担当者・締め切り・文字数の決定などです。その後はそれぞれ、取材対象者にアポを取ったり、記事を書くための調査を行ったりします。



### 1 企画

錦城生が興味を持ってくれるような紙面になるように編集委員で工夫しています。前号が発行された次の日に行っています。



今号を編集している途中の様子です。見やすい紙面を目指して試行錯誤しながら紙面を編集していきます。

### 3 編集

取材を終えたら、すぐに記事担当は記事の作成、写真担当は写真の選別を行います。記事は取材した内容をまとめて、パソコンで文字起こし、文字数を調整し完成します。写真は撮影した写真から紙面に載せるものを編集担当に提出します。そして、完成した記事と写真を紙面のレイアウトに組み込み、調整を重ねます。その後に見出しなどを付け、紙面が完成します。



### 2 取材

行事や部活動など取材先は様々ですが、腕章とカメラをもって校内で取材を行っている編集委員を見かけることは多いと思います。生徒などに行う取材では、事前に決めた質問をもとにインタビューを行います。行事の取材では、その時起きたことを速報として伝えられるようにメモしたり、その場の人に即席で取材を行ったりします。そして取材した内容をもとに記事を書いていきます。取材へのご協力よろしくお願いいたします。

正確な記事が書けるように工夫しながら取材と写真撮影を行っています。書いた記事は相手に確認を取っています。

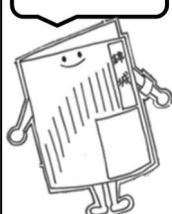
## 新聞委員会の魅力

新聞委員会編集室は月曜日から土曜日まで、週6日間活動していますが、必ず毎日来る必要はありません。編集委員は半分以上が兼部しており、勉強や他の部活動と両立して活動している人も多いため、紙面が完成した時は大きな達成感を感じることができます。

私の考える新聞委員会の魅力は、委員同士の距離が近いことです。先輩と後輩の仲も良く、雰囲気も良いので全員で協力して新聞を作ります。編集委員は個性的なメンバーが集まっており、編集室での会話はいつも盛り上がりつつ楽しいです。また貴重な経験を多く積めることも魅力の一つです。

新聞委員会では講演会に訪れる講師の先生や地域の人にも取材する機会があります。外部取材を通して様々な人生や信念をもった人からお話を聞くことで、他では得られない学びや経験を得られます。私は元々文章を書くことや人に話を聞くことが得意ではありましたが、取り組んでいくうちに上達しました。多くの人の話から学び、全員で一つのものを完成させることの達成感や喜びは何にも代えることができないものだと考えています。

ぜひ来てね!



## 貴重な経験を取材で

新聞委員会編集室の特徴の一つが外部取材で、例年、夏休みや冬休みを利用して取材を高校生活はなかなかないことである。2023年度では、小平市役所、立川防災館、国立劇場にて行われた第34回総文祭優秀校公演、小平市にあるウクライナ避難民レストラン「Ukrainian」ウクライナ国立パレード(東京公演)などの取材をだるら。そんな風に思った経験した。

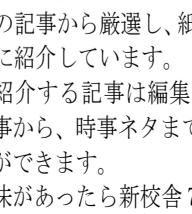
## 錦城新聞の良き伝統

錦城高校新聞の記事は編集委員によって書かれていますが、発行されている紙面の囲み記事をよく見ると、記事の終わりに括弧がついた漢字1文字が記載されています。これは記事の取材と文章を担当した編集委員の書名、いわゆるペンネームです。書名は編集委員になってから決めますが、ただ適当に漢字を選んでいくというわけではなく、書名には学年ごとにテーマがあり、これに沿って各々が好きな漢字を選びます。これは錦城高校新聞独自の伝統です。60回生は各自の誕生日の和名から、61回生は好きな国の和名から各々好きな漢字を1字とっています。

60回生は、「紫」↓アメジスト(紫水晶)「蛋」と「白」↓オパール(蛋白石)

61回生は、「珠」↓ゴールデンパール(真珠)「鋼」↓コランダム(鋼玉)「月」↓ムーンストーン(月光石)「橄」↓ペリドット(橄欖石)を書名としています。

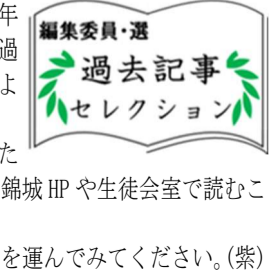
62回生は、「新」↓オランダ(和蘭陀)「普」↓プロイセン(普魯西)「仏」↓フランス(仏蘭西)「瑞」↓スウェーデン(瑞典)を書名としています。



新聞の表面の左下に掲載されている「むらさき草」。学校行事に合わせた句の話題から自分の趣味、日常生活の中で気になることなど、様々な話題について編集委員が自らの意見を書いています。深く考えさせられるものから笑ってしまうようなものまで、内容は様々です。ぜひ読んでみてください。(紫)

## オリジナル企画連載中!!

錦城高校新聞再刊400号を記念して、昨年2月から行われている企画で、編集委員が過去の記事から厳選し、紙面の魅力が伝わるように紹介しています。紹介する記事は編集委員が興味を持った記事から、時事ネタまで様々です。紙面は錦城HPや生徒会室で読むことができます。興味があったら新校舎7階の生徒会室に足を運んでみてください。(紫)



錦城高校新聞では、この2つの企画の他にも文化部の活動内容を紹介する「文化部めぐり」や錦城生の大会での成績を紹介する「大会報告」生徒会の活動を紹介する「生徒会動静」なども連載しています。(白)